

建築物名称	富士市新環境クリーンセンター建設工事(資源回収棟)
受付日	平成30年2月21日
建物所在地	富士市大淵676番地 外93筆
構造規模等	鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄筋コンクリート造・鉄骨造／地上1階／延床面積2,560.66平方メートル／新築
建物用途区分	工場
建築主	富士市長 小長井義正
設計者	川崎重工業株式会社 プラント・環境カンパニー級建築士事務所 松林寛樹
工事完了予定日	平成32年5月29日

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新環境クリーンセンター(資源回収棟)	階数	地上1階
建設地	静岡県富士市大淵676番地 外93筆	構造	S造
用途地域	指定なし・法22条	平均居住人員	9人
地域区分		年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2020年5月 0.0	評価の実施日	2018年2月9日
敷地面積	74,382 m ²	作成者	川崎重工業 松林
建築面積	2,596 m ²	確認日	
延床面積	2,561 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	新環境クリーンセンター(資源回収棟)	BEE	1.8	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [*] /満点		取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9	/5			ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.1	/5			よい	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5			ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.3	/5			ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点		3.9	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)					
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①トップライトによる採光 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ①環境アセスの実施 ②高緑地率、高空地率の確保 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ①トップライトによる採光 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ①雨水利用設備の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	Q-1	2	2.1	2.1.2	① 外皮性能
	Q-1	3	3.1	3.1.3	② 昼光利用設備
			3.2	3.2.1	③ 昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数
			2.2.2	2.2.2	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔
		2.2.3	2.2.3	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
		2.2.4	2.2.4	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
		2.2.5	2.2.5	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	
		2.2.6	2.2.6	④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3	1		⑤ 生物環境の保全と創出	
		3	3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1		⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
		2		⑧ 自然エネルギー利用	
		3		⑨ 設備システムの高効率化	
		4	4.1	⑩ モニタリング	
			4.2	⑩ 運用管理体制	
	LR-2	1	1.1	⑪ 節水	
			1.2	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
			1.2.1	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
			1.2.2	⑪ 材料使用量の削減	
		2	2.1	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
			2.1.1	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
			2.1.2	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
			2.1.3	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
			2.1.4	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
			2.1.5	⑫ 有害物質を含まない材料の使用	
			2.1.6	⑫ 断熱材	
		3	3.1	⑬ 消火剤	
			3.2	⑬ 断熱材	
			3.2.1	⑬ 冷媒	
			3.2.2	⑬ 断熱材	
			3.2.3	⑬ 冷媒	
	LR-3	1		⑭ 地球温暖化への配慮	
		2	2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		4.1	
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性
				2.1.2	⑯ 免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰ 空調・換気設備
				2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備
				2.4.3	⑰ 電気設備
				2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法
				2.4.5	⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		3.0	
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画
		3	3.1	3.1.1	⑲ 階高のゆとり
				3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ
	Q-3	3	3.1	⑲	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		3.3	
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1		⑳	⑳ 生物環境の保全と創出
		2		㉑	㉑ まちなみ・景観への配慮
		3	3.2	⑳	⑳ 敷地内温熱環境の向上
	LR-3	2	2.2	⑳	⑳ 温熱環境悪化の改善